

令和6年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針について

時代とともに多様化する福祉ニーズに応えるべく、地域福祉の担い手として、施設事業や居宅介護支援事業のサービスに注力してきた。また、新たな在宅事業の展開についても検討。

人材確保等においては、職員の育成をしつつ様々な広報活動に取り組み人材確保に努めてきた。

(1) 地域貢献

・ 社宅の一部を「医師」に無償貸与 昼夜を問わず、地域医療・福祉に取り組んでいる本田医師に対し、活動拠点の居宅として提供。
・ 施設内を交流の場として開放 本年度は村内の交流は叶わなかったものの、県立医科大生等との交流を実施（実務研修や災害時の経験、ホーム行事の参加等）。

(2) 職員の質の向上

・ オンライン研修を何時でも受けられるよう会議室の環境を継続（P C 機器等の設置）
・ 資格取得の支援の継続 （自由に利用できる部屋を設けると共に、研修費用の支援や勤務体制にも配慮）
・ 職員が気兼ねなく相談等ができる相談室を設ける。
・ 自己研鑽のためのボランティア休暇を推進

(3) 人材確保

・ 被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用し、職員募集のP R 品等を配布。
・ ホームページの更新（適宜）
・ インスタの発信（随時）
・ 広報紙の年2回発行
・ 村の広報等を活用

2. 事業内容について

- ・ 理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年5回、評議員会年1回、監事会年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6名、監事2名）

回数	開催日	出席(名)		内 容
		理事	監事	
第1回	令和6年 5月30日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和5年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 令和5年度社会福祉法人いいたて福社会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の選任について 議案第6号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について
第2回	7月12日	5	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会評議員候補者の推薦について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の招集について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について

回数	開催日	出席(名)		内 容
		理事	監事	
第3回	令和6年 11月18日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第3号 介護記録ソフト等物品購入契約の締結について
第4回	12月27日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 WiFi環境等の整備及び見守り機器等購入契約の締結について 議案第3号 会計等ソフト及びOA機器購入契約の締結について
第5回	令和7年 3月5日	5	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 令和7年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第3号 令和7年度社会福祉法人いいたて福祉会収支予算(案)について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会育児・介護休業等に関する規則の一部変更について 議案第8号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について

(2) 評議員会の開催状況(定数7名)

回数	開催日	出席(名)		内 容
		評議員	監事	
定時	令和6年 6月24日	5	2	議案第1号 令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について

(3) 監事会の開催状況(監事定数2名)

開催日	出席(名)	内 容
令和6年 5月10日	2	令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 令和5年度理事会及び評議員会の執行状況について
講評		全体的に適正に処理されている旨の報告あり。

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況(定数3名)

開催日	出席(名)	内 容
令和6年 7月23日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

・役員研修等

オンライン研修が主となり、参加し易くなったものの、やはり次年度は集合研修も期待したい。

令和6年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告

1. 基本方針

- (1) 施設での生活が“居心地のよい毎日”となるように日々取り組んできた。
また、コロナ感染対策で縮小されていた夏祭りやミニ運動会についても、制度が緩和されたことによって、内々ではあるものの盛大に開催することができた。
- (2) 人員不足対策として、業務内容の見直しやICTの導入などで効率化を図ってきた。
また、施設のPRを含めInstagramや広報紙を発行することは、職員応募にも役立ち実感している。
- (3) 職員研修は、Webでの研修が主流となり、職員全体会議内で復命し周知してきた。
- (4) 職員の腰痛予防のため、体位交換時のスライドシートや移乗時のスライドボード等の勉強会を開催。実際に導入することができた。
- (5) 新型コロナ感染の分類が5類となり、4月から家族との対面面会が可能となった。但し、県外や子供さんとの面会時は止む無くガラス越しとした。
- (6) 自然災害やBCP（事業継続計画）の取り組みについては、訓練はもとより、マニュアルの見直しと勉強会を職員全体会議等で計画的に行ってきた。
- (7) 高齢者虐待防止、身体拘束ゼロ対策、認知症ケアについての勉強会を開催。また、人権擁護の委員会を月1回開催し、職員全体会議でも研修を行っている。

2. 具体的な取り組み

(1) 生活・環境面の充実

【介護度区分状況】 (最高齢者 104 歳、最低齢者 64 歳、平均年齢 90.2 歳) 2025.3.31 現在

性別\介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男性	—	—	1人	2人	2人	5人	4.2
女性	—	—	10人	17人	11人	38人	4.0
計	—	—	11人	19人	13人	43人	4.0

【月別入退居状況】 2025.3.31 現在

入退居数\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者数	1	2	0	1	0	2	1	2	0	1	0	0	10
退居者数	0	0	1	1	2	2	2	3	0	0	2	1	14
月末在居者数	48	50	49	49	47	47	46	45	45	46	44	43	43

【入居者在居期間状況】 2025.3.31 現在

男女数\期間	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	計
男性	1	3	1	0	0	5
女性	8	16	11	3	0	38
計	9	19	12	3	0	43
比率(%)	20.9	44.2	27.9	7.0	0	100

取 組	具体的な内容
1. 居心地の良い環境づくり (安らげる環境)	1-① 使用していた筆笥を持ち込んでもらうことはあまり実用的でなく、施設の家具を使用する方も多く単調になりがちであった。 ② 整理整頓、清潔保持はもちろん、消臭対策には排泄後の新聞紙の活用や消臭スプレー、換気などで徹底してきた。
2. 生活リズムの維持	2-① 職員間で情報を共有(サービス計画表作成・ケア会議の開催、申し送りノートを活用)してきた。 ② 生活習慣と本人の希望を大切に、その時の体調に合わせたケアの見直しをしてきた。
3. 家庭的な雰囲気づくり	3-① 西棟に面会場所を設け、対面での面会を可能にしてきた。面会者に近況等を伝えることで、信頼関係を深めることにも繋がった。 ② 誕生会を開催。(厨房職員が事前に希望をとり、好きなケーキを手作りで提供。目も口も喜んだひと時でした。)

(2) サービスの質の向上

(食事)

取 組	具体的な内容
1. 体調に合わせた食事	1-① 特に「食べられるタイミングを見逃さない。」を意識し、しっかり目覚め、嗜好、咀嚼、嚥下の現状を把握してきた。 ② 食事形態の選定（常食・軟食・ソフト食・キザミ食・ペースト食・ゼリー食）と食事姿勢、テーブルや椅子の調整等、安全に食事ができる環境に努めてきた。 ③ 飲み込み困難な方にはトロミ剤で粘度調整を行い、無理なく水分を補給。また、適正な水分の量にも気配りをしてきた。
2. 家庭的・季節感を味わう	2-① 少しでも生活の音や匂いを感じられるように、屋外で野菜を作り、採れたもので調理するなど、それぞれ楽しんでいた。 ② 厨房から季節毎に「〇〇膳」が提供され、添えられている折り紙にも目を丸くして喜んでいました。
3. 口腔内清潔保持	3-① 口腔衛生管理が義務化されました。歯科医院の協力のもと定期的に指導や講習を受けています。 ② 口腔ケア体操は昼食前の時間に行っています。しかし、機能低下している方も多く、参加できる方も限られてきています。

(入浴)

取 組	具体的な内容
1. 体調に合わせる	1-① 体調に合わせた入浴形態をその都度行ってきた。 (ユニット内の個浴、リフト機械浴、チェアインバス等の使用) ② 1人介助が難しい時は、福祉用具の活用や2人介助で行った。
2. 快適な入浴	2-① お湯加減(38～40℃)、浴室温度(23～25℃)を常に保つ。 ② マンツーマン介助で、ゆったりとした入浴に努め、同時にコミュニケーションの時間もとってきた。

(排泄)

取 組	具体的な内容
1. 体調に合わせる	1-① 排泄パターンの把握と排泄用品を選定。特に今年度はパットの見直しをさせていただいた。(夜間の安眠確保を重視した尿取りパッドが開発され、勉強会や試行を重ね実践に移している。) ② 意向の尊重とプライバシーに配慮した介助に努めた。
2. オムツからトイレ介助へ移行	2-① トイレでの排泄に結びつけるのが難しい方については、移乗介助が出来ない方もいます。また、介助機器別毎にデモを数回行ったが、排泄移乗に特化した機器がなく、二人介助でどうにか行っているのが現状である。
3. 皮膚の保護	3-① 皮膚トラブル防止。(陰部洗浄・清拭、保護薬の塗布等)

(自立支援)

取 組	具体的な内容
1. レクリエーションへの参加	1-① 朝のラジオ体操や昼の口腔ケア体操は、食前体操として全館放送している。参加が難しい方もいますが、音楽が流れることで意識が持てたと考えています。 ② 感染防止対策の為、ホール等でのレクリエーションは数回のみとなりました。しかし、個別ケアとしてボール投げや輪投げ、懐かしい曲を一緒に歌うなど、其々に楽しみました。
2. 趣味や生きがいづくり	2-① カレンダー作りや塗り絵、村文化祭に出品する七夕飾りを作った。また、2ユニット毎、個々に合わせた役割(洗濯物たたみ、おしぼりづくり、食事配膳の手伝い等)を持っていただくことで、生活感や達成感を味わえることへの支援をしてきた。
3. 買い物支援	3-① 売店の開催は達成できませんでした。次年度は村内にドラッグストアが出来る事で、買い物外出等を支援していきたい。 ・ 自分で選び達成感を味わって頂く。 ・ 外出可能時期にタイムリーな買い物支援をしていく。

(重度化のケアと看取り)

多職種と連携し、「最期までここで良かった。」と提供いただける介護を目指す。

取 組	具体的内容
1. 最期まであきらめないケア	1-① 体調に合わせ、ベッド等の環境を検討。より安楽に苦痛を感じさせないケアに努めました。 ・ 手足の冷感対策をはじめ、“しわ”や“よれ”に注意することで、褥瘡の発生を防いできた。 ・ 経験を重ねるたび多職種との連携がどれほど重要なのか理解できた。重ねて苦痛の緩和に対する関心も高まったことは事実である。 ② 体に負担がかからない入浴方法や清潔保持。 ・ その日の体調に合わせ看護職員と相談し提供してきた。 ・ 入浴できない時は清拭で保清してきた。
2. 孤独感を感じさせない	2-① ベッド毎の移動も度々ありました。その人の嗜好に合わせ、皆と同じ場所で過ごしたり庭に出たこともありました。 ② 職員はできる限りスキンシップに心がけてきました。 ③ 家族との時間をどのように過ごしていただくかを、家族の状況に合わせその都度対応してきた。 感染対策から、以前のように居室で過ごしていただくのは今後の課題と考えています。

(3) 人材育成

(職員育成)

- ① 半年前からICTを導入、ケース記録のインカム入力化や、見守りセンサーを設置、デジタル化することで時間短縮と効率化に繋がり、利用者の安全と職員の負担軽減になっている。

取 組	具体的内容
1. 職員育成	1-① 介護及び福祉関連の資格取得へ支援。 ・ 研修費用等の支援、勤務日の配慮。 ② 専門的な介護技術や知識を深める。 ・ 施設内外の研修や会議に参加、結果等を全介護職へ周知。 ③ チームケアで日常生活を支援。 ・ 家内会議で詳細な情報を共有する。 ・ サービス計画の理解と連携。
2. 会議、委員会の充実	2-① 職員全体会議、家長会議、家会議、ケア会議の開催 ② 身体拘束委員会（虐待含）、食事口腔ケア委員会、感染症対策委員会、事故防止対策（リスクマネジメント）委員会、排泄褥瘡対策委員会、環境設備委員会等の開催。
3. ケアマネジャーとの連携	3-① 常にケアマネと情報（現況の状態やケアのあり方等）を共有してきた。また、介護サービス計画の理解を深めるためケア会議で周知してきた。

(安全性と危機管理)

- ① 事故を未然に防ぐため、“気づく力”を養ってきました。（ヒヤリハットの意義と活用）
② 職員一人ひとりが感染対策の意識を高め、職場内に感染を持ち込まない取り組みを行ってきました。
③ 災害（地震・火災等）時に、利用者と職員の安全が守られ、その後もサービスが継続できるよう、職員一人ひとりが危機管理について熟知し対応できるよう訓練や勉強会をしてきた。

取 組	具体的内容
1. 安全性と危機管理	1-① 身体拘束ゼロ及び虐待防止の取り組み。 ・ 身体拘束防止委員会（虐待含む） 月 1 回開催 ・ 職員勉強会 年 2 回（虐待防止含む） ② 新型コロナ感染等防止対策。（研修の開催） ③ 災害の対応

2. 職員の腰痛予防対策	- 事故安全担当者や設備・環境委員会を中心に、施設内の環境、福祉用具等の不具合を適宜確認してきた。 - 防災マニュアルの見直し。（停電時の対応等） - 備蓄品、持ち出し品、非常食等の管理と確認。 ④ 避難訓練（火災・水防想定訓練 月 1 回） （自然災害時の訓練 年 2 回） （原発災害時の訓練 年 1 回（総合訓練）） 2-① 移乗介助（ノーリフト）の勉強会開催 - 移乗用福祉用具と移乗用ロボットの選定と活用。 - 移乗介助技術の勉強会。 - 腰痛ベルト着用（必須）の取り組み。
--------------	--

（４）施設運営

取 組	具体的内容
1. 介護報酬の理解	1-① 科学的介護情報システム（LIFE）を活用した PDCA サイクルの推進等。 - 栄養マネジメント強化加算、褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算等に係る書類の整備。 - 科学的推進加算の書類提出により、フィードバックされる内容を基に自立支援を促しケアが低下しないようにする。
2. 新規入居者	2-① 適した居室、福祉用具（車いす）等の提供。 個々に合った受入体制を整える。
3. 節電への取り組み	3-① 電気料金高騰に伴い節電対策。 - 冬期間の床暖房の温度調整。（エアコンは最小限に） - 洗濯乾燥機の可動率を抑える。（自然乾燥へ） - 照明や家電製品（電気こたつなど）のめな消灯 - 室温 夏期間 27～28℃ 冬期間 22～23℃ - 湿度 年間通して45%以上に（全居室加湿器使用）
4. ペーパーレスへの取り組み	4-① 日常の連絡や記録等をPCの共有リンクを活用。 ② 会議資料をPCやタブレット等で確認できるようにしてきた。

3. 年間行事

概ね例年どおり実施。季節感を味わえていただけたのではと思います。

（主な行事関係等）

月 日	主 な 内 容
4.17 職員結婚祝い	職員の結婚祝を、入居者を招き桜の下で行いました。新婦新郎の衣装やヘアデザイン、ブーケ、アーチ等は職員の手作り。厨房職員からは豪華なウエディングケーキがプレゼントされ、お祝い後、皆で美味しく頂きました。
5.12 外食ドライブ	村内の景色を眺めるドライブを実施。当日は入居者の自宅近くまで行き田畑等も見てきました。その後「風の子ひろば」で休憩し、神社に参拝。昼食は、玄関先のツツジを眺めながら厨房自慢のお弁当を美味しく頂きました。
5.12 母の日	村更生保護女性会から頂いた花の置物を、感謝状と一緒にプレゼントしました。感謝状を読み上げると「ありがとうね」と、とっても良い笑顔で返して頂きました。
5.19 外食ドライブ	2回目の外食ドライブ。今回は神社を参拝。昼食はホームに戻り外庭で厨房手作りのサンドウィッチとコロッケパンを美味しく頂きました。
6.13 柏餅づくり	入居者が、練った粉を一つずつ手で伸ばし“昔はもっと大きかった”“餡子を煮るのが大変だったな”などと昔話に花が咲いていました。蒸かし上がったかしわ餅は皆で美味しく頂きました。
6.16 父の日	村更生保護女性会より、男性入居者に電気髭剃り置ききの「フェルト箱」がプレゼントされ、とても喜んでいました。昼食はビールで乾杯。ちらし寿司や茶碗蒸し等を美味しく頂きました。
6.23 百歳賀寿祝い	入居者の一人が百歳を迎えました。メイクを施し着物に着替え式典に参加。県・村・社協・老人クラブより表彰や祝辞を受けました。その後、ホームから記念品の指輪を贈呈。また、職員による大黒舞や花笠音頭も披露されました。

7.7	七夕	入居者と一緒に作った七夕飾りが、ホールいっぱいには飾られました。今年はデザインも工夫され皆さんを楽しませました。昼食は厨房特製の七夕そうめんを美味しく頂きました。
9.7	夏祭り	今年は広々とした東棟前庭で開催しました。利用者も職員も浴衣等に着替え、模擬店やゲームを巡り、盆踊りや花火など楽しんでいました。
9.15	敬老会	百歳以上の方にホームから表彰授与。村からは全員に敬老祝の記念品を頂きました。式の後、職員の余興（大黒舞・安木節・フラダンス）が披露され、皆さん大笑いしながらのお祝いとなりました。
11.6	芋煮会 ミニ運動会	西棟ホールに集まりミニ運動会（玉入れ）を開催。久々のユニット対抗戦と云うこともあり、利用者も職員もハッスルしていました。昼食には、皆で作ったおにぎりや豚汁等を美味しく頂きました。
12.22	クリスマス会	サンタやトナカイが各家を回り、手作りランチョンマットとお菓子をプレゼント。また、昼食には行事食を美味しく頂き、ティータイムでは厨房手作りのお菓子バイキングで盛り上がりました。
12.27	餅つき	利用者と一緒に餅つきを行いました。入居者がじゅうねんを搥り、餅を丸め、お供え餅やあんこ餅、じゅうねん餅、汁餅等、皆で美味しく頂きました。
1.2	新年会	各家でゆっくりとお膳を囲み新年を祝いました。
1.12	団子さし	入居者と一緒に、団子を丸めミズの木にさしました。“だんごさしは仕事始めなんだ”“田んぼの準備だな”等、会話が盛り上がっていました。
2.3	豆まき	今年の年男年女が各家を回りました。鬼に扮した職員に入居者が「鬼は外」と豆を投げつけ笑いを誘っていました。また、普段動かない腕が上がる場面も見受けられ行事の成果を実感しました。昼食は、厨房からの恵方巻をいつも以上の食欲で頬張っていました。
3.3	ひな祭り	各棟のホールや家内にひな壇を飾り、季節行事の雰囲気を楽しみました。また、桃の節句の行事食（ちらし寿司等）が提供され舌鼓を打っていました。
月1回（月始め）		避難訓練を実施

1. 家目標と方針について

認知症があってもその人らしく暮らせるようにと、目標に掲げた。

何かしらの疾患がある方に対し、日々の変化を受け入れることに戸惑いをおぼえ、それでも対応しなければならないジレンマを抱えながらの毎日でした。

年間で6名の方とお別れしました。

本当に“多死社会”なんだと思わずにはいられません。看取りケアに努めた一年であったように思います。

日々の些細な変化に気付けるよう足を運び声掛け、表情や反応から状態の変化を察知しました。また、その人らしい最期を迎えられるようお手伝いをして来ましたが、もっとしてあげられることがあったのでは…と悔やむことが多かった一年でもありました。

花の大好きな方には、居室から見える場所に花壇を作り観てもらっていました。

次第に食べられなくなって、か細くなって、亡くなる前日にその花を摘んで花瓶に飾ったら“きれいだ”と言ってくれた時の気持ち…今でも覚えています。



入居されている方が減っていく中でも、できることを模索しながらの毎日。施設全体を見渡すことができるようになり、応援業務にも努めました。

また、昔を思い出すよう、園芸や菜園を共に楽しみ、きゅうり・なす・ミニトマトを収穫し、漬物や炒め物などを一緒にしました。



ひだまりの家入居者状況（R7.3.31 現在）

入居者数	5人	最高齢者	94 歳	平均年齢	92 歳
------	----	------	------	------	------

① 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
人 数	1人	3人	1人	4.0

② 認知症については、軽度が1人、他4人については中度～重度となっている

(1)生活	① ストレスを溜め込まない環境づくりとして、歌の好きな方と一緒に歌い、身体を動かす事が好きな方と輪投げや風船バレーなどを行い笑顔も見られ楽しんで頂けた。また、散歩も日課とし気分転換を図って頂いた。 ② 長い時間居室で過ごす方においては、孤立感を味わうことがないように、テレビやラジカセを設置するほか、離床シフロアで過ごす時間も設けた。また、季節を感じて楽しめるようフロアの空間を利用した飾り付けをすることで、和める家づくりを目指してきた。 ③ 入居前からあった趣味、例えば縫物などは継続してできるよう、また、道具でけがをしないよう取り扱いにも気を配った。 【面会状況】 面会延人数 122 人、面会最多者 25 回
(2)食事	食べることが出来なくなっても、分食や嗜好を確認するなど、食事形態の見直しを行い、少しでも満足感を味わってもらえるよう多職種と連携した介護に努めた。 【食事形態状況】 軟食 3人、キザミ食 1人、経管栄養者 1人 【食事介助者】 一部介助 1人
(3)入浴	① 状態変化に合わせ柔軟に変更し最期まで入浴出来る環境づくりに努めた。 ② 在宅酸素対応者の入浴介助は、医務と連携を密に細心の注意を払いながら家内の個浴に2人介助で安全に入浴が出来た。 【年間入浴者数】 延回数（個別浴 279 回、機械浴 331 回） （個別浴 2 人対応での入浴者 1 人）
(4)排泄	排尿・排便チェック表を活用、個々の状態に合った排泄環境を整え、医務と連携し健康状態を把握出来た。 【排泄介助内訳】 トイレ介助者 2人（一人当たり 1 日平均8回～9回） オムツ交換者 3人（一人当たり 1 日平均5回～6 回） （ベッド上での交換者3人の内、2 人対応で行う方 1 人）
(5)認知 症ケア	① ケアで悩んだ時は、些細な事も申し送り欄に記入し、話し合いを持つなど職員間で共有、ケアを前向きに取り組めた。 ② 一人ひとりの状態がそれぞれ違うが、表情や言動・行動から判断し、柔軟な対応でケアが概ね出来た。 ③ コミュニケーションを図り、昔話や生活歴を知る事で、ケアに繋げる事ができ信頼関係も徐々に築ける事が出来た。

1. 家目標と方針について

(1) 家庭的な家づくりということで取り組んできた1年でした。一人ひとりの時間に合わせたケアは出来たように思います。また、看取りや寝たきりの方が多いですが、却ってコミュニケーション能力は、少しずつレベルアップしたようにも感じます。

(2) 小さな変化にも気づき、体調管理や事故防止に努める事ができた。

申し送りを活用し、報・連・相を徹底し行うことができていた。半面、受け取り方の違いで伝わっていない時があったので、次年度は徹底し行いたい。

(3) 居室で過ごされている方もテレビを観たり、好きな音楽を聴いたり、口ずさんだりしてホッとできる環境で過ごして頂けたと思います。

(4) 面会時には、近況をお知らせしたり、誕生会の様子や行事などを写真で見えて頂くことで信頼関係を図ることができたと思います。



(5) めくもりの家入居者状況 (R7.3.31 現在)

入居者数	7人	最高齢者	93歳	平均年齢	85歳
------	----	------	-----	------	-----

① 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
人数	2人	2人	3人	4.1

② 認知症については、軽度が3人、他4人については中度～重度となっている。

2. 具体的内容

(1)生活



① 感染に配慮しながらも、施設の行事には参加を促してきた。

② 話すことができない方も多く、暑いのか寒いのかなど汲み取ることの難しさを知る。

③ ベッド環境を整え、クッション、マットレス、ムートンなどを使用することで、褥瘡や皮膚トラブル防止に努めることができ離床時間も体力に合わせ増やすことができていた。

④ 逆流性食道炎の方の対応として、食後マッサージ機に座って頂き、腹部を伸ばすような姿勢で休んで頂くことで、消化を促し嘔吐の軽減が図られた。

⑤ 体位交換、移乗介助の際に福祉用具（スライドボードやスライドシート）を使用することで、その人も職員も負担が軽減され良かった。今後も様々な用具を有効に取り入れていきたい。

【面会状況】 面会延人数 99人、面会最多者 20回

(2)食事	① 食事の姿勢に気をつけ、座位保持を徹底し安定した姿勢で食べ頂く。 ② その人と相談し個々に合わせた食事形態、自助具や滑り止めを選定し、食べやすい環境を提供することができた。 ③ 食前体操（パタカラ体操）にも力を入れ、飲み込みや咀嚼がスムーズに行えるよう促してきた。 ④ 歯科衛生士の指導もあり、食後の口腔ケア内容を理解することで、嚥下機能の維持だけでなく口腔内の把握にも繋がった。 【食事形態状況】 軟食 4人、キザミ食 3人 【食事介助者】 全介助 1人、一部介助 3人
(3)入浴	① 入浴の際、不穏な様子の時は原因を探り、本人の好きな事を提供し気分よく入浴して頂けるように努めた。 ② 皮膚トラブル（内出血）にならないよう常に慎重に行い、2人で対応することにより柔軟な対応をすることが出来た。 ③ 入浴の際、リフトの活用。スライドボード、スライディングシートも使用し、安全且つ安心な持ち上げない介護を、一部では行うことが出来ていた。 今後も更に力を入れて推進していきたい。 【年間入浴者数】 延回数（個別浴 424回、機械浴 318回）
(4)排泄	① 尿量と皮膚に合ったパットの選定と個々に合わせた時間で排泄交換を行い、皮膚トラブル防止や褥瘡予防に力を入れてきた。 ② プライバシーを配慮し、いかにも今交換中ですよというイメージを無くした排泄交換を行ってきた。 ③ トイレ介助も決まった時間ではなく、本人が行きたい時間に誘導することで、適切なタイミングやパットの選定にも繋がる事ができた。 【排泄介助内訳】 トイレ介助者 2人、オムツ交換者 4人 オムツからボクサーパンツ移行 2人
(5)認知症ケア	① 行動や言動の意味を理解し、一人ひとりに合わせた声かけがある程度できた。否定的な内容や正すような声かけには気をつけて対応してきた。 ② ケアをする際、もう少し一人ひとりに向き合う時間を取れば良かった。 ③ 全般的に入居者に向き合い、なじみのある関係を気づき、落ち着いた空間で安心して過ごすことができたのではないかと思います。

1. 家目標と方針について

(1) その人の尊厳を保ち、声に耳を傾け心のケアを重視していくことについては、言動だけでなく心の“声”を汲み取ることの難しさを痛感した。

自ら意思表示ができないからこそ私たちがいる。と思えるよう、毎日が試練だと思っています。

(2) 安心してうたた寝が出来るくらい居心地の良い居場所づくりについては、当該職員の意見や他の職員からのアドバイスをもらい何とか対応できたように思います。



(3) やすらぎの家入居者状況 (R7.3.31 現在)

入居者数	8人	最高齢者	104歳	平均年齢	90歳
------	----	------	------	------	-----

① 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
人数	1人	4人	3人	4.3

② 認知については、認知なし1人、軽度3人、中度～重度他4人となっている。

2. 具体的内容

(1)生活 ① 全体でのレクがあまり出来ない中、楽しめる時間を過ごしてけるよう“塗り絵”や“間違い探し”の本を活用。また、吹き流し製作時には一緒に取り組みました。



② ベッド上で過ごされる方が半数。できるだけ多く足を運び、テレビやラジカセで音楽を楽しんでもらったり、会話をしたり寄り添うよう努めてきた。

③ 検温をこまめに体調管理に努めた。暑いのか寒いのか、汗ばんでいるのか、足が冷たいのかなど、本当の意味で観察の目を養いました。

④ 足の浮腫みがある方が多く、マッサージ機の活用や足を高くするだけでなく、クッションを工夫するなど勉強会で得たことを反映してきた。

⑤ センサーマット使用については、必要性の有無を毎回検討し合ってきた。

⑥ プライバシーについては、かけ声に気を付け、できるだけ静かな空間を保てるようにした。

【面会状況】 面会延人数 120人、面会最多者 11回

(2)食事	① 食事時の姿勢やテーブル高さ（オーバーテーブル）などに注意、できるだけ自力で食べられるよう取り組むことが出来た。 ② 自助具や滑り止めなど、個々に合わせた食器等の選定をしてきた。 ③ 食事形態を考え、美味しく食べて頂くことを何より大切に、口腔内の見直しもすることで誤嚥防止に務めた。 ④ 食前体操（パタカラ体操）にも力を入れ行ってきたが、毎日出来ず難しい時もあった。 【食事形態状況】 常食 1人、軟食 2人、キザミ食 1人、ゼリー食 3人、経管栄養 1人 【食事介助者】 全介助 2人、一部介助 2人
(3)入浴	① 保湿剤や入浴剤、個々に合ったシャンプーを使用することで、スキントラブル防止に努めてきた。 ② ゆったりとした入浴をと考えていたが、なかなか実行することが出来ず、「どうすれば」とみんなで悩んだ時もあった。 ③ 移乗や移動などの回数を減らすことで、本人の負担軽減を図った。 ④ 皮膚トラブル（内出血）にならないよう常に慎重に行い、入浴後の状態を把握。変化があった時は、看護師と連携し柔軟に対応することが出来た。 【年間入浴者数】 延回数（個別浴 495回、機械浴 290回）
(4)排泄	① 尿量と皮膚に合ったパットの選定に悩んだ。ケア会議に諮り其々の意見を頂きながら選定したものを提供することで、皮膚トラブルや褥瘡予防などに繋がった。 ② トイレで排泄をする爽快感を継続できるよう努めてきた。 ③ 皮膚の状態を常に把握・確認し、慎重に行うよう努めてきた。 ④ 体調の変化に伴い、福祉用具の導入や2人対応で安全に行うことができた。 ⑤ 排便コントロールが上手く行かず、不快感を与えてしまった事もあり、看護師に相談。下剤の調整だけでなく食物繊維等を副食に取り組むなど、調整を行ってきた。 【排泄介助内訳】 トイレ介助者 5人、オムツ交換者 3人

3. 生活全般について

今年度1名の方のお見送りをしました。「これでよかったのか」「もっと他に何かやれるとこはなかったのか…」と考えさせられるばかりでした。糖尿病がもたらす弊害とその怖さを目の当たりにしました。

また、状態変化に伴い、何が必要で何を優先すべきなのかを判断するため、専門的知識の習得はもちろん、チームで支援するためコミュニケーション力も求められることを深く学んだ一年でした。

1. 家目標と方針について

生活している人も職員も居心地がいい職場環境に努めた。

コミュニケーションを取り信頼関係をつくり優しさと笑顔を届けられるように努めた。



2. 具体的な方針

(1) その人の“声”を聴く。言えないからこそ（今何をして欲しいのか）が分かる介護職員になりたいと思ってきました。

(2) その人を知る上で得た情報（気づき）は、職員間で共有し毎日のケアに繋げた。

(3) 認知症や持病が悪化しても、本人の意思や言動を尊重した介護が提供出来るように努めた。
（慌てない、急がない、焦らない、応援を呼ぶ

など、余裕を持つことが大切）

(4) 居室やフロアの整理整頓、介護用品の点検を怠らないように努めた。

居室の設えも、その人らしい居心地の良い空間で過ごせるよう心掛けた。

(5) 寝たきりの人がフロアに出たり、体調に合わせて離床したりと、疎外感を感じさせないケアを行い、スキンシップ（マッサージなど）を通して、拘縮予防や寝たきり予防に繋げてきた。

(6) “抱えない介護”を目標にしてきた。改良される福祉用具を取り入れることで職員の健康を守り、併せて入居されている方にも快適な日々を過ごしていただくことができた。

(7) 「優しさ」＝何でもしてあげる介護ではなく、相手のことを思いやり、一緒に出来ることを引き出していける介護を目指した。

(8) せせらぎの家入居者状況（R7.3.31 現在）

入居者数	8 人	最高齢者	96 歳	平均年齢	91 歳
------	-----	------	------	------	------

① 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
人 数	3 人	4 人	1 人	3.8

2. 具体的内容

(1)生活	① 花の手入れ、金魚の餌やり、洗濯たたみと役割を担って頂いた。 ② 個々に合ったレクリエーション（機能訓練）を行った。 体操、外気浴、ボール遊び、塗り絵や計算ドリル、カラオケ等を行った。 ③ 感染症予防を徹底してきた。 ④ 個々に合わせた起床や就寝介助等、その人らしい暮らしのサポートを行ってきた。（アセスメントシート等の活用。） 【面会状況】 面会延人数 203 人、面会最多者 23 回
(2)食事	① 月に一度、“居酒屋”を開催。好きな物をつまみながら夕食とした。多職種とも連携を行い、食べたり飲んだり楽しいひとときでした。

	  ◁(自助具ではさまれた大根を、つい食べてしまった職員です!) ② パタカラ体操やマッサージを継続し、口腔機能の維持に努めた。 【食事形態状況】 常食 1人、軟食 4人、キザミ食 3人、 【食事介助者】 全介助 1人、一部介助 3人
(3)入浴	① 季節毎、菖蒲湯やゆず湯を楽しめるようにしてきた。 ② 個別浴槽で入浴していただく際は細心の注意が必要でした。 拘縮や麻痺があっても安全に入浴していただくため、機械浴に移行した方もいます。それでもゆったりとした時間を提供できるよう工夫してきた。 ③ 終末期であっても清拭や手浴、短時間の入浴等、臨機応変に実施。 さっぱり感を味わってもらえるよう支援を行った。 【年間入浴者数】 延回数(個別浴 462回、機械浴 288回)
(4)排泄	① 尿量チェック表を活用し、個々に合ったパットの選定や、排泄交換時間などを見直した。 ② 医務と連携し個人に合った排泄環境を整えてきた。ベッド上での交換の方も排便日はトイレに座りスッキリ感を味わえるように努めた。 ③ 皮膚トラブルを防ぐため、陰部洗浄や保湿に努めた。 【排泄介助内訳】 トイレ介助者 6人、オムツ交換者 2人
(5)認知症ケア	① その人の顔なじみになり、「この人がいれば安心できる」「信頼できる」と思ってもらえるような関係を目指した。 ② 日々の変動を把握するためにも、就業前の情報収集は欠かさなかった。 ③ 親しき中にも礼儀あり。言葉遣いや行動には常に気を付け、相手を敬い優しさをもって支援するように努めた。 ④ 笑顔、ふれあい、アイコンタクト等、言葉以外のコミュニケーションも大切にしながらケアを行った。 ⑤ 昔の遊び、音楽、畑づくり、行事等を通し、ふれあいを大事にした。 ⑥ 職員がアイデアを持ち寄り、毎日の生活の中にも気分転換や刺激を与えられるような活動を行ってきた。

1. 家目標と方針について

「個性を考え、メリハリのある生活環境を提供して行き、その人らしく暮らせる家づくりを目指したい。」

(1) 生活の質を落とさないためにも自分で出来る事はしてもらった。

→ モチベーションが上がるような声かけをしてきた。タオルたたみだけでなく、花の手入れやぬり絵などを一緒に楽しんだ。

(2) 少しでも我が家のように感じてもらう為に、なじみのある家具を持ち込んでもらい居心地の良い場所にしてきた。

→ 個々の生活スタイルを理解し、住み良い暮らしになるよう心掛けて支援してきた。

(3) 情報収集に努め入居者のことを知ることに努めた。過ごしやすい環境をつくるため、食事の席替えや車椅子の選定、ベッドで休む時間と離床時間など生活パターンに配慮してきた。

(4) ヒヤリハットを挙げて行くことで大きなアクシデントが出ることがなく良かった。

(5) だんらんの家入居者状況 (R7.3.31 現在)

入居者数	7人	最高齢者	98歳	平均年齢	91歳
------	----	------	-----	------	-----

① 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
人数	2人	2人	3人	4.1



2. 具体的内容

(1)生活



- ① 寝たきりの方が約半数。してあげられることの難しさに悩むことが多い日々でした。
- ② 天気の良い日は声かけをして、日光浴や散歩をするなど気分転換に努めた。

	【面会状況】 面会延人数 58 人、面会最多者 15 回
(2)食事	① その日の体調に合わせたケアの難しさを知る。 - 水分摂取が上手く行かないとき、選んだ飲み物だけでなく、姿勢やトロミのつけ具合など専門職の意見も参考にした。 - しっかり目を覚ましてからの食事の提供に努めた。 - 食事もキザミ食と軟飯のハーフ食を加え、見た目でも美味しく食べていただけるように努めた。また、嚥下状態を見ながら、そのまま提供するのではなく食べやすいようにカットした。 - 常に多職種と報・連・相を行い情報共有に努めその都度見直しが出来た。 - 誕生日には食べたいものを聞き、また手作りのケーキも提供。皆でお祝いすることができた。 【食事形態状況】 常食 1 人、軟食 1 人、キザミ食 2 人、 補助食品 2 人、経管栄養 1 人 【食事介助者】 全介助 3 人、一部介助 1 人
(3)入浴	① 個浴から機械浴に変更された方 1 名。体調に合わせ、適宜、入浴の方法を変更してきた。 【年間入浴者数】 延回数（個別浴 400 回、機械浴 350 回）
(4)排泄	① トイレで排泄することで爽快感を得られるようにと努力した。 ② 排便コントロールが難しく看護師と相談を行いながら支援してきた。 【排泄介助内訳】 トイレ介助者 3 人、オムツ交換者 3 人、トイレ 2 人介助 1 人
(5)認知症ケア	① 一人ひとりの職員が家族になったつもりで過ごした日々でした。同時にコミュニケーション能力も少しだけアップしたようにも思います。 ② 意思を尊重し、その日の状態に合わせ過ごす場所を決めることができました。

1. 家目標と方針について



(1) 互いを尊敬し思いやる心を持って過ごしてきた。ただ、業務をこなすのではなく、何気ない声かけや会話、あるいは寄り添うことで信頼関係を深めることが出来たと思う。

“あんたでよかったあ〜”と言われた時には思わずにんまりとしました。

◀(夏には一緒にふき流しを作成。見事優勝シトロフィーを獲得。副賞として1万円をゲットしました!!)

(2) 利用者の生活リズムに応じて、居室・フロア間で自由に過ごせる環境づくり(炬燵やソファの活用、個人スペースでの居場所づくり)にも努めた。

“自分で選び、できるだけ自分でできるように支援する。そして満足感を味わってもらう“自己決定と潜在機能(現有機能)の活用を目標に実施してきた。



(3) 感染症対策を行いながらの面会を実施。いつもは見せない一面を見ることが出来た。

(4) 声にならない声や、変化に気付ける目と耳を養う。分からないままで業務に臨むことがないよう、今後も一人ひとりが疑問を持ち続ける。情報は自ら収集する。職員間で意見を出し合い、根拠と責任感のある良心的な介護を行えるよう取り組んでいきたい。

(5) こもればの家入居者状況(R7.3.31 現在)

入居者数	8人	最高齢者	103歳	平均年齢	90.5歳
------	----	------	------	------	-------

① 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
人数	1人	6人	1人	4.0

② 認知症については、軽度が2人、他6人については中度～重度となっている

2. 具体的内容

(1)生活	① 個々の好みや性格を理解し、職員間で共通認識に努めた。本人の思いを汲み取り、自己決定と現存機能の活用を大切にしながらケアを行えた。 ② アクシデント、ヒヤリハット、皮下出血等について速やかな報告、記録を行うことが出来た。しかし、日常的に危険予知が薄れてしまうこともあった。 ③ 面会時に近況報告、誕生会の連絡等を行い繋がりを大切にできた。本人の希望に沿った誕生日ケーキや、家料理を兼ねた食事等、厨房協力のもと楽しい思い出づくりが出来た。 ④ ユニット内の感染症対策、フロアと居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策など職員が同じ思いで取り組んでいた。 【面会状況】 面会延人数 139人、面会最多者 69回
-------	--

(2)食事	① 見た目からも食事を楽しめるようメニューに合った食器の選定や盛り付けの工夫、食べる直前に目の前で切り分けるなど行えた。 ② 御膳やランチョンマットの使用。汚れ防止のタオルをバンダナに変更し、見た目の改善にも取り組めた。 ③ 職員の観察により、義歯の有無による咀嚼の変化や嚥下機能の低下、摂取状況について速やかに厨房へ報告。ケア会議時にも検討をしてきた。 ④ 個人嗜好を聞いた上でティータイムの飲み物を提供。「冷たいのが良い、温かいのが良い、甘い物が欲しい」など会話をする機会が増えた。 【食事形態状況】 軟食 6人、 超キザミ食 1人、ゼリー食 1人 【食事介助者】 全介助 1人、 一部介助 1人
(3)入浴	① 着替えの衣類をその人と一緒に選ぶことで、これから入浴する雰囲気をつくることできていた。更に、工夫した声かけで拒否が抑えられていた。 ② その人に合った入浴剤やボディクリーム等で保湿を心がけ、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができた。また、入浴時に発見した異常についても直ぐに申し送りし看護師への報告に努めた。 ③ 菖蒲湯や、ゆず湯を提供し季節を感じていただいた。また、音楽を聴きながら入浴ができるといった楽しみを持てるよう努めた。 ④ 冬季には室温調整や洗身時に足浴を行うことでヒートショックを防いだ。 【年間入浴者数】 延回数（個別浴 545回、機械浴 241回）
(4)排泄	① 職員間の申し送り時には暗号（施設独自に決めたもの）を使用。 排泄時にはカーテンや扉を閉めて羞恥心に配慮した対応に心掛けた。 ② 排泄チェック表を活用し、個々に合わせたトイレ誘導の時間や、尿量に応じたパット選定が出来た。 ③ 職員間の申し送り事項や、看護師と相談しながら下剤の調整、食物繊維を用いることでスムーズな排便コントロールができた。立位が難しい方についても可能な限り一日一回は便座に座っていただく事により、排尿・排便で得られる爽快感を維持できた。 【排泄介助内訳】 トイレ 一部介助者 4人 （1日平均 8回） トイレ 全介助者 2人 （1日平均1～2回） 排便時2人対応でのトイレ介助者1人 （令和7年3月よりベッド上での交換に移行中） ベッド上 全介助者 4人 （1日平均5～6回） （トイレとベッド上併用者 2人） オムツ使用者からトイレ一部介助へ移行人数 1人 令和7年1月より尿量に応じたパットの選定で、定時の排泄交換の回数を減らし、夜間帯の安眠確保に取り組んでいる。夜間定時交換平均5～6回減。
(5)認知症ケア	① 要望や行動に対し否定せず、言い換え表現を意識した声かけを行った。 ② 毎回同じ言葉が聞かれると「またか…」と頭をよぎり、聴き上手になれない時があった。また、自身の対応で不安を感じさせた事などをケア会議で話し合い改善を図ってきた。 ③ 会話をする時は相手と視線を合わせ、声のトーンや時にはジェスチャーを交えながら会話を多く持った関わりを意識した。 ④ 数多くとはいかなかったものの、家料理や作品作りを利用者で行うことで関係性を深めながら笑顔を多く引き出すことが出来ていたように感じる。